

# 「平成30年度に実施した仕事」の振り返りシート

記入日 平成 31 年 4 月 10 日

仕 事 の 内 容	市債及び公債費事務					
担当部署・課長名	下水道	課	庶務	係	課長名	廣瀬 裕

この仕事は、どの【施策】の課題を解決するための手段ですか。	施 策 番 号	4 - 1	-
【施策名】 市街地の整備	総合計画書 (ページ)	83	

予算名	款 3	公債費	項 1	公債費	目 1	元金	1	元金	1	事業	1	元金	1	利子	利子
-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	---	----	---	----	---	----	---	----	----

1	この仕事の目的	<b>① 誰(何)を対象にしていますか。</b> ①市債の借入 ②公債費の償還	<b>① ①の対象数や量を、あらわすもの(対象指標)</b>  → ①予算額 ②予算額
		<b>② ①をどのような状態にしたいのですか。[簡潔に]</b> ①対象事業費に対する費用を借り入れる。 ②償還表に基づいた償還を行う。	<b>② ②の状態になった数・量をあらわすもの(成果指標)</b>  → ①借入額 ②償還額
		<b>③ そのために何をしましたか。</b> ①起債対象事業の精査 ②償還額の確認と円滑な償還事務	<b>③ ③をどのくらい行いましたか(活動指標)</b>  → ①精査した起債対象事業数 ②償還のために作成した伝票の作成数

		単位	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度実績	平成31年度目標	平成32年度目標	
2	対象指標	①の数値	①円 ②円	420,300,000 1,301,028,000	370,900,000 1,251,980,000	185,700,000 1,212,824,000	/	
		②の数値	①円 ②円	389,700,000 1,299,441,070	364,100,000 1,246,322,881	173,700,000 1,211,146,780	/	
	目 標	②の目標値	率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
		目標値設定の考え方 ①借入額が償還額を上回らず、かつ対象事業費に対して限度額まで借り入れる。						
活動指標	③の数値	①件 ②回	3 38	4 40	3 42	/	/	

3	経費	事業費(実績)		円	1,299,441,070	1,246,322,881	1,211,146,780	※人件費の所要人数は、基本的には「人」で表わしますが、一時的な仕事については時間数での表示も可とします。その場合単位を「時間」に変更してください。 人件費(再任用職員以外)年間単価は、8,244,000円 時間単価は、4,200円で計算してください。 【算出根拠】平成29年度決算数値。(退職手当組合負担金、共済費も含む。)
		財源		円	444,553,721	380,024,697	379,166,430	
		一般財源		円	854,887,349	866,298,184	831,980,350	
		特定財源		円				
		(うち受益者負担)		円				
		人件費(目安)		人	0.1	0.1	0.1	
所要人数(再任用以外)		円	826,700	825,300	824,400			
所要人数(再任用)		円						
職員人件費(再任用以外)		円						
職員人件費(再任用)		円						
事業費+人件費		円	1,300,267,770	1,247,148,181	1,211,971,180			

この仕事における市の裁量 市の裁量は大きい

4	環境変化	この仕事の開始時期(開始年度)、何を目的に開始していますか。	市の下水道事業については、昭和50年度に生活環境の改善と浸水の防除を目的として荒川右岸東京流域下水道管連公共下水道事業を開始しており、係る市債を昭和48年度に初めて借入れている。
		開始当初と比較し、状況の変化はありますか。	現在では下水道普及率が99.9%となり、主に下水道施設の維持管理や今後の更新計画の策定等を進めている。

仕 事 の 内 容	市債及び公債費事務					
担当部署・課長名	下水道	課	庶務	係	課長名	廣瀬 裕

5 市 民 等 の 意 見	この仕事に関して、平成30年度中に寄せられた市民・議会等の意見、また、市民・サービス利用者等の実態やその意識について	
	公債費については減少傾向が続いているが、今後の下水道施設の更新に係る財源の1つとして市債を検討することが必要となる。	

6 市 民 協 働	(1)市民協働の取組を行いましたか。ある場合は、取組手法の種類から番号を選択。（複数回答可）	
	取組みは無い	取組手法
	【取組手法の種類】 ①共催 ②実行委員会・協議会 ③事業協力 ④事業委託 ⑤補助・助成 ⑥情報提供・情報交換（広報媒体： ） ⑦後援・場の提供 ⑧その他（ ）	
(2)平成31年度に向け、さらに適した協働の形態とするための「考え」又は「気付いた」点		

7 課 題	(1)「平成29年度に実施した仕事」の振り返りシート 「7 課題（2）」の内容 償還額に対し借入額が上回らないよう心掛けているが、今後の下水道施設の更新に係る事業費に対し、その財源として市債の借入れが予想されるため、収支のバランスに留意する必要がある。	
	(2)(1)の課題解決に向けた取組や、事務改善など、平成30年度に実施したこと。 償還額に対し借入額が上回らないように起債した。	
	(3)(2)を踏まえた今後の課題 今後も償還額に対し借入額が上回らないように留意する必要がある。	

8 今 後 の 方 向 性	(1)仕事の方向性（「7 課題（3）」の課題解決に向けた具体的な改革・改善案など） 将来負担の軽減のため、借入額の抑制を図る。	
	(2)上記(1)の改革・改善案を実現するために、克服すべき問題点、必要な調整・準備等 平成30年度に策定した「公共下水道ストックマネジメント基本計画」を今後の更新計画の基礎とし、また、平成32年4月1日の地方公営企業会計への移行により既存施設の把握や経営状況の把握に努める。	
	(3)改革・改善案による期待成果 上記(1)の改革・改善案を実施することで、成果面と経費面で現状からどのように変わりますか。	

成果	成果を維持する。	経費	仕事の経費は維持する。
----	----------	----	-------------